

# 島根県浜田市在住の高齢者の 健康福祉及び生活基盤に関する 情報把握の現状と考察研究

総合政策学科3年  
三戸口誉之

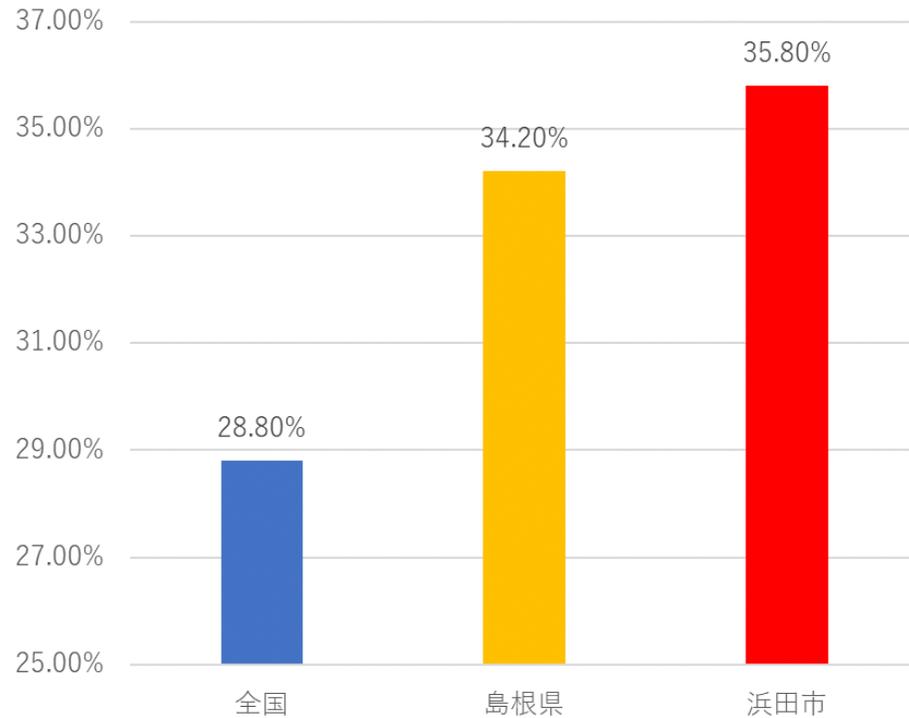
所属：山本健三ゼミ

# 目次

- 1.研究背景
- 2.研究目的
- 3.調査方法
- 4.結果
- 5.考察
- 6.今後の課題
- 7.参考文献
- 8.謝辞

# 1.研究背景

2020年高齢化率比較グラフ  
(2020, 国勢調査)



<7つの「まちづくりの大綱」>

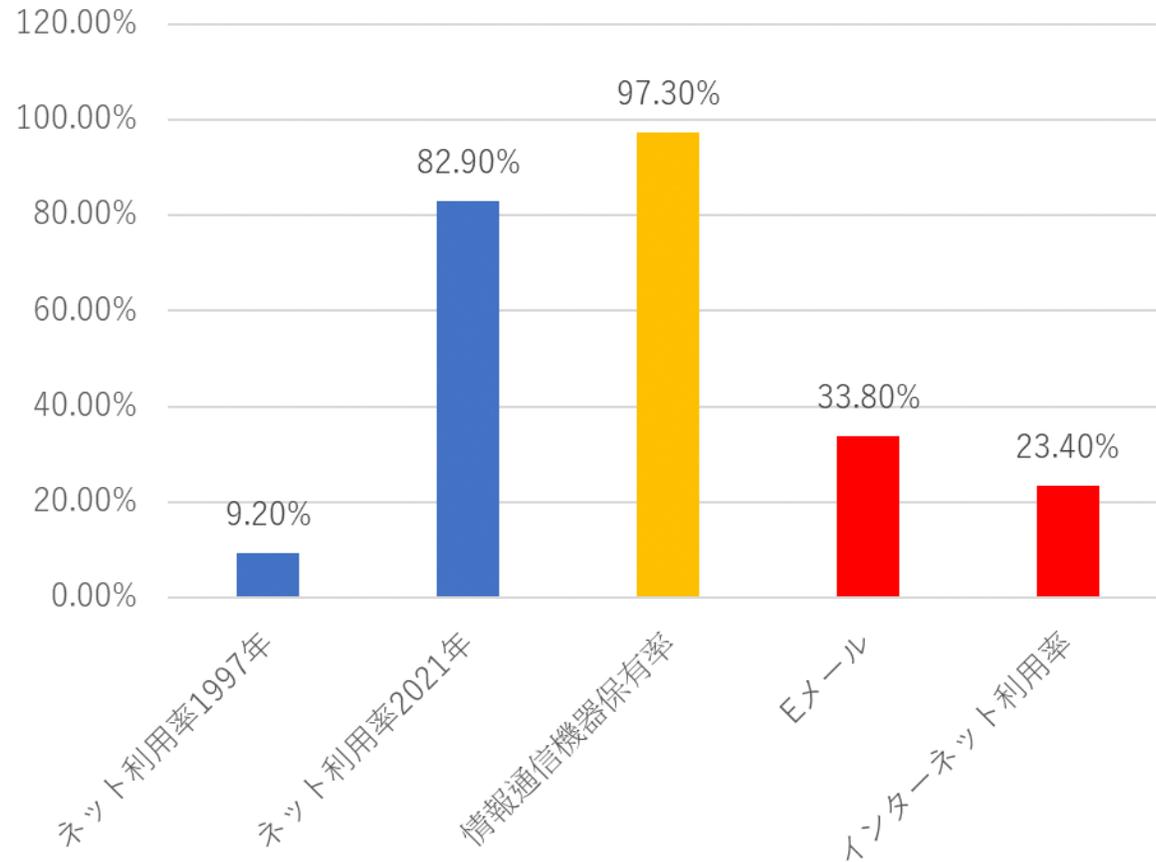
高齢者の方に注目した

健康でいきいきと暮らせるまち

生活基盤が整った快適に暮らせるまち

⇒ **浜田市の活性化**

## 2.研究目的



情報通信機器の利用に関するデータ  
(総務省,2021/深谷ほか2016)

## 社会の変化

情報通信機器の普及  
公共サービスの充実

⇒情報の電子化  
情報量の増加

情報を確実かつ迅速に  
入手する

## 2.研究目的

健康福祉・生活基盤に関する情報

どのくらい知っているのか？

どこから得ているのか？

効果的に情報を届けるには？

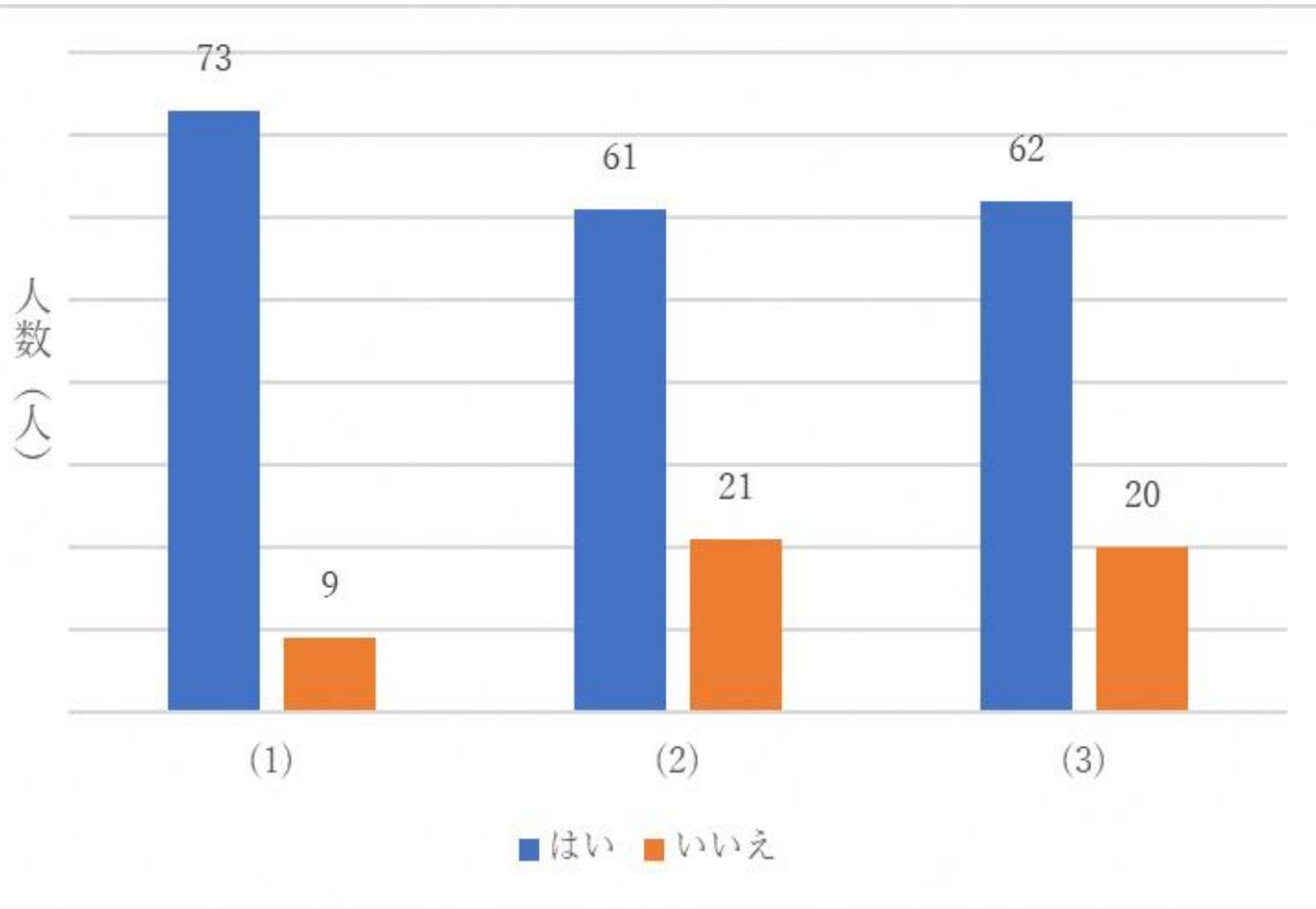
## 2.研究目的

健康で長生き

豊かな暮らし



## 4.結果

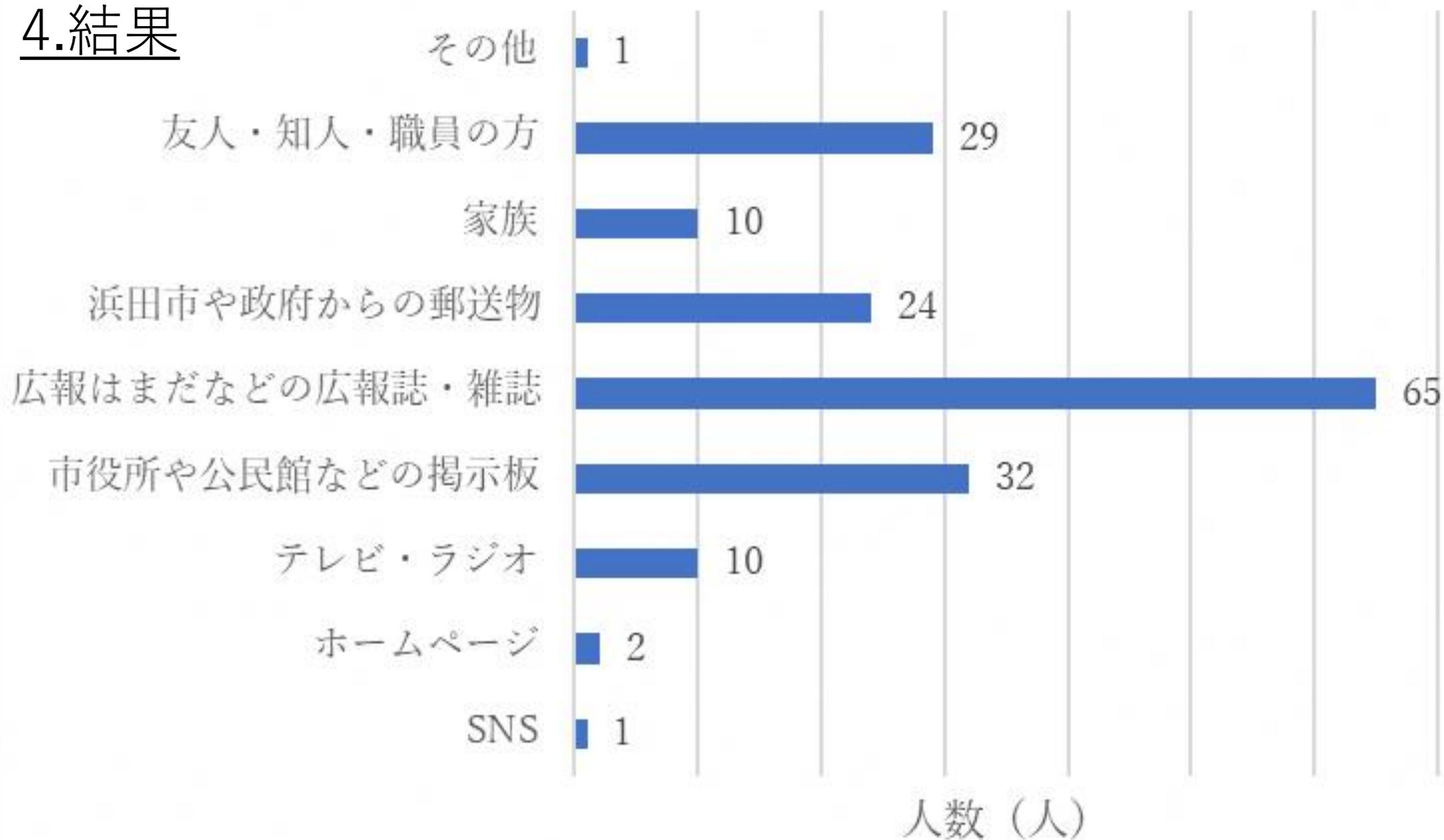


(1)浜田市に住んでいると胃がんや大腸がんの検診が無料で受けられることを知っていますか？

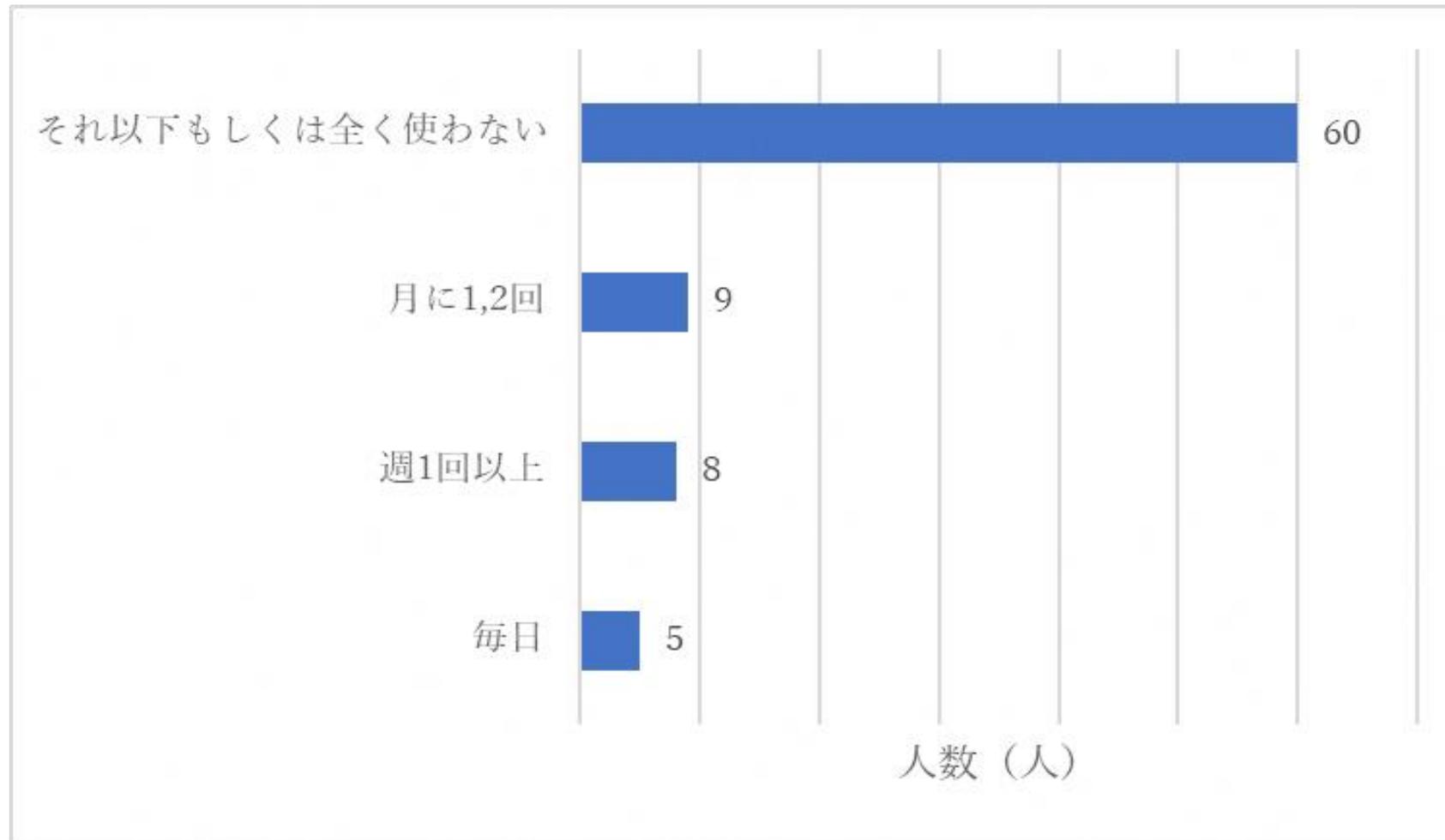
(2)「はまだ健康チャレンジ」という事業を知っていますか？

(3)浜田市営住宅があることを知っていますか？

## 4.結果

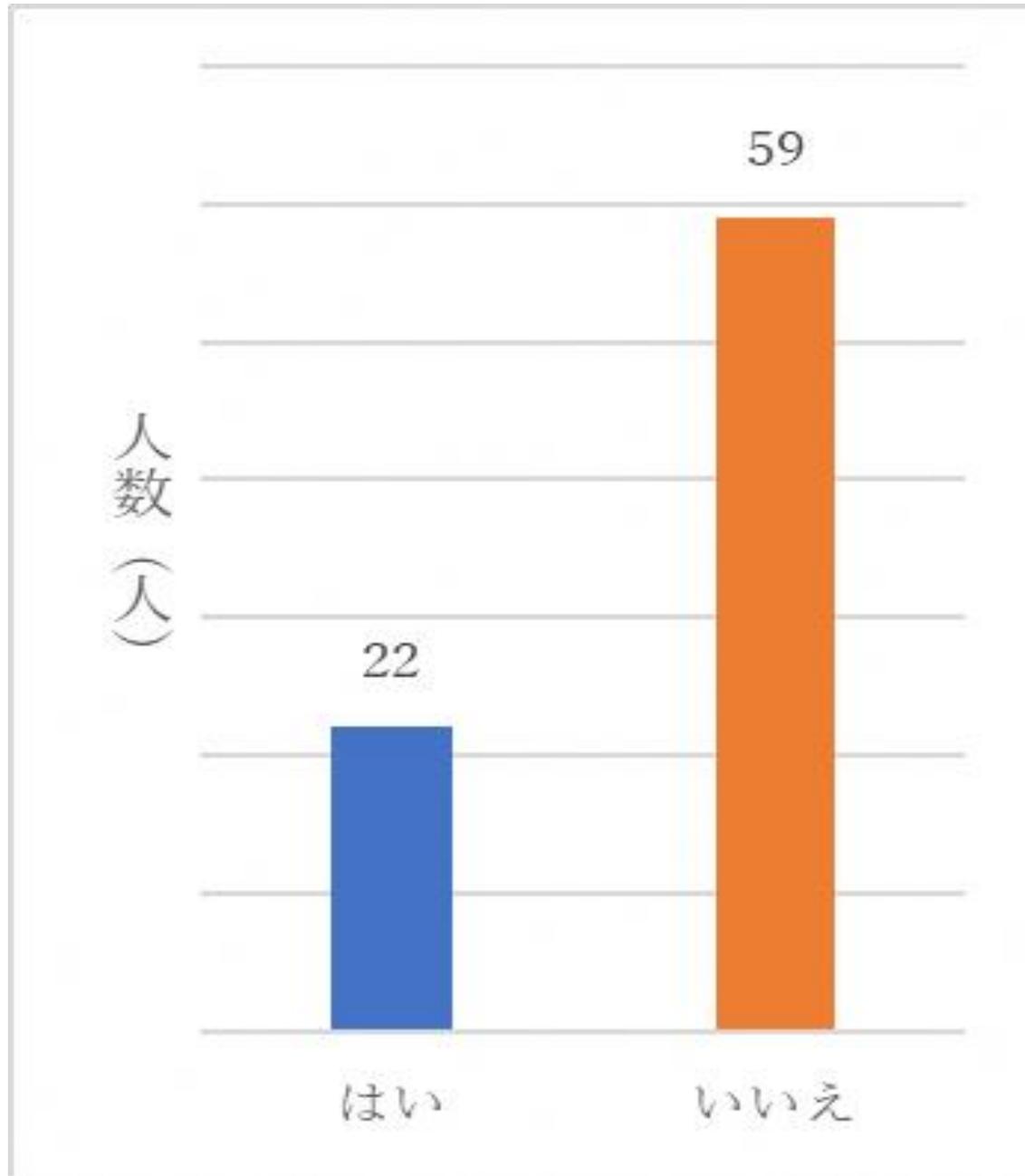


## 4.結果



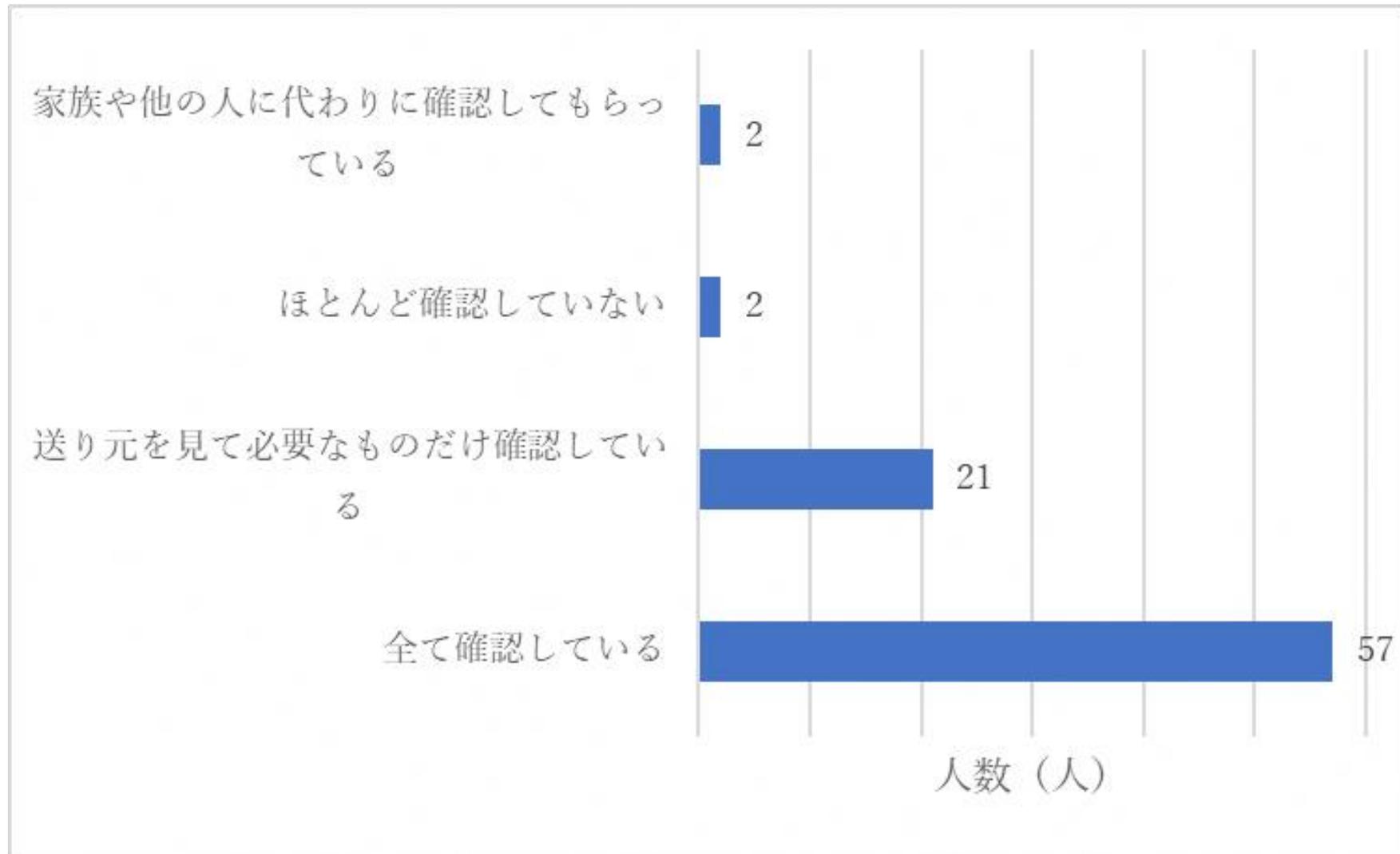
インターネットはどれくらいの頻度で使いますか？  
(公共施設での利用や他人に操作を依頼するのも含む)

## 4.結果



調べ物をするときに  
(ご自身のみで) インター  
ネットは使いますか？

## 4.結果



家に届く郵送物の内容は確認していますか？

## 5.考察

どのくらい知っているのか？

⇒ 健康福祉に関する情報は92%の方  
生活基盤に関する情報は76%の方

いずれも高い割合で情報が把握されていることがわかる。

## 5.考察

どこから得ているのか？

⇒ 広報誌・雑誌、掲示板、郵送物といずれも紙ベースの文面から情報を得ている方が非常に多かった。

また、友人・知人・職員の方といった個別のコミュニケーションによる情報収集も多く利用されていた。

反対に電子媒体によるインターネットからの情報収集は非常に少なかった。

## 5.考察

効果的に情報を伝えるには

- 1.高い割合を維持する為に  
紙ベースでの情報伝達を継続する
- 2.ホームページの検索方法などインターネットの利用方法を広め利用率を上げる

## 6. 今後の課題

1. その他の年齢層を対象とした調査

2. 地域ごとの違いの調査

3. インターネット利用率が低い要因の調査

## 7.参考文献

- 国勢調査人口等基本集計結果（2020）
- 総務省情報通信白書第2部第8節デジタル活用の動向（2021）
- 高齢者の電子メールおよびインターネット利用に関連する要因（深谷太郎,小林江里香,杉澤秀博,Jersey Liang,杉山弘子,老年社会科学第38巻第3号,2016）
- 国土地理院

## 8.謝辞

このような研究の機会を頂いたこと感謝申し上げます。

浜田市地域政策部各位

浜田市福祉協議会関係者各位

島根県立大学別枝行夫教授

島根県立大学山本健三教授

浜田市民の皆様

その他本研究にご協力いただいた皆様

以上の皆様に感謝申し上げます。

